

# 『グローバル会計研究』執筆要領

グローバル会計学会編集委員会

2018年5月8日決定

## 1. 表紙

表紙には、論題（日本語および英語）、執筆者名（日本語および英語）、所属および肩書き（日本語および英語）、論文要旨（日本語(500字)および英語(200 words)）を記載します。

## 2. 原稿の様式

応募原稿は、MS Wordによる横書きで、B5判、横40字×縦36行＝1,440文字とし、余白は上35mm、下30mm、左・右30mmをとります。原稿（論文要旨・英文要旨を含む）は、原則として刷り上がり30頁以内とします。ただし、編集委員会が妥当と認めた場合には、制限頁数を超えることができます。

日本語はMS明朝、英語はTimes New Romanとします。見出し、図、表の題目はMSゴシック（太字）とします。漢字、ひらがな、カタカナ以外の文字（例えば、数字、アルファベット）は半角にしてください。文字化けを避けるために、特殊なフォント文字は使用しないでください。フォントサイズ等は次のとおりです。

論題	14ポイント	センタリング
執筆者名	11ポイント	右寄せ
所属および肩書き	11ポイント	右寄せ
論文要旨	10ポイント	左寄せ
本文	11ポイント	左寄せ
見出し	12ポイント	左寄せ
注（文末）	10ポイント	左寄せ
参考文献	10ポイント	左寄せ

## 3. スタイル

本文の節、項等については、以下のようにしてください。

（1行空き）

I 見出し

（1行空き）

本文

1. 見出し

本文

(1) 見出し

本文

注

参考文献

## 4. 表記

現代仮名遣い、当用漢字、新字体を使用してください。接続詞（および、ならびに、また、ただし等）についてはひらがなを、数字についてはアラビア数字を使ってください。また、外国人名については原語により表記してください。なお、本文の句読点は、句点（。）と読点（,）とします。

## 5. 図表

図と表は必要最小限にとどめ、それぞれ通し番号(図1, 図2, 表1, 表2...)を付すとともに、簡単な見出しをつけてください。

## 6. 引用および注

文献を引用するための注については、本文の該当個所に次の様式で記載してください。

[例] (Sprouse and Moonitz[1962],pp.23-24) (年号については西暦を、表記にあたっては半角文字を使用してください)。また、人名の表記において日本人については姓のみとし、頁の表記においてドイツ語文献についてはSを、和文献については頁を使用してください。なお、上記の表記法においては区別ができない場合には、人名についてはSprouse,R.T.または高須教夫のようにフルネームに、年号については年号にa,bを付してください。

説明のための注については、本文の末尾に一括して記載してください。なお、かかる注については本文の該当個所に(1),(2)のようにルビ上ツキで示してください。

## 7. 参考文献

研究に引用した文献(論文、著書、URL等)のリストを本文の最後に、和文献と洋文献を区別せず、著者名のアルファベット順に次の様式で記載してください。

- ・和書 著者名[出版年]『書名』出版社名。
- ・論文(和) 著者名[出版年]「論文名」『雑誌名』第○巻第○号,○-○頁。
- ・洋書 family name, personal name[出版年], 書名, 出版地(または出版社名)。
- ・論文(洋) family name, personal name[出版年],“論文名,”雑誌名, Vol.○, No.○, pp.○-○。(ドイツ語文献等についてはVol, No, pp部分を適宜変更してください)

なお、personal nameについてはR.T.のように省略してください。また、論文の頁数については当該論文のフルページを記載してください。さらに、出版年については西暦で記載してください。

著者が複数の場合、日本人については中野常男・高須教夫・山地秀俊のように、外国人についてはSprouse, R.T. and M. Moonitzのように記載してください。

論文が著書の1章に該当している場合、和書については

著者名[出版年]「論文名」編著者名編[出版年]『書名』出版社名,○-○頁。

洋書については

family name, personal name[出版年],“論文名,”in family name, personal name (ed)[出版年], 書名, 出版地(または出版社名), pp.○-○。

としてください。

訳書については、原著書を使用しない場合には和書に準じた取扱いをしてください。原著書を使用する場合には、原著書について洋書として記載した後に、括弧書きで訳書を記載してください。[例] Littleton, A.C.[1933], *Accounting Evolution to 1900*, New York (片野一郎訳[1978]『リトルトン 会計発達史(増補版)』同文館出版)。

なお、編著、訳書については、それを引用文献として実際に使用する場合を除いて[出版年]の記載は必要ありません。ただし、その場合には、編著、訳書の出版地(または出版社名)に続いて出版年を記載してください。

## 8. その他

書式の統一を図るため、文章、仮名遣いなどについて、編集委員会が修正することがあります。

以上